

八甲田山の火山活動解説資料（令和2年8月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・ 噴気など表面現象の状況（図1）
監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。
- ・ 地震や微動の発生状況（図2）
火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 地殻変動の状況（図3、図5）
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

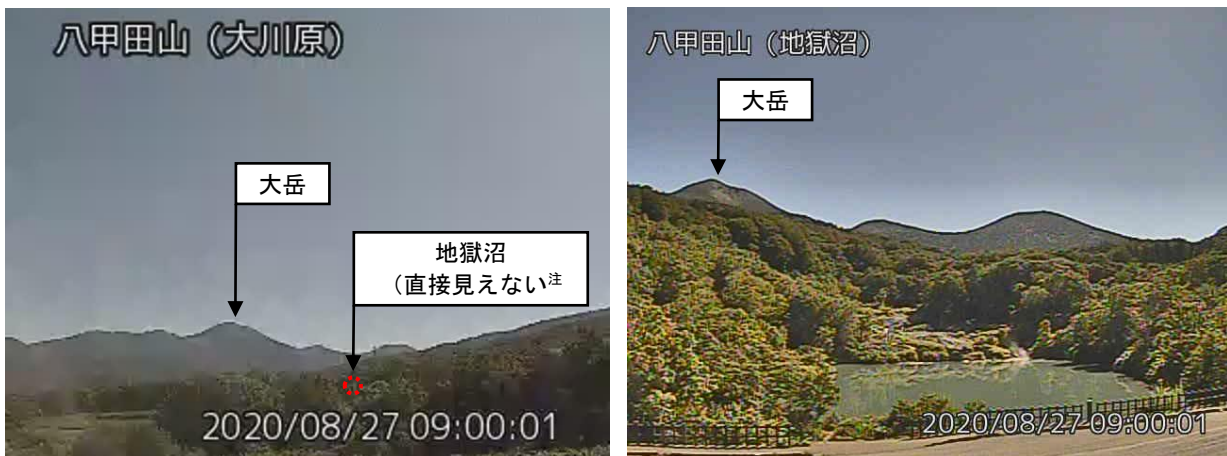


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺の状況（8月27日）

- ・ 左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像です。
 - ・ 右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像です。
- 注1）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原では高さ100m以上のときに観測されます。
赤破線が地獄沼の位置を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年9月分）は令和2年10月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

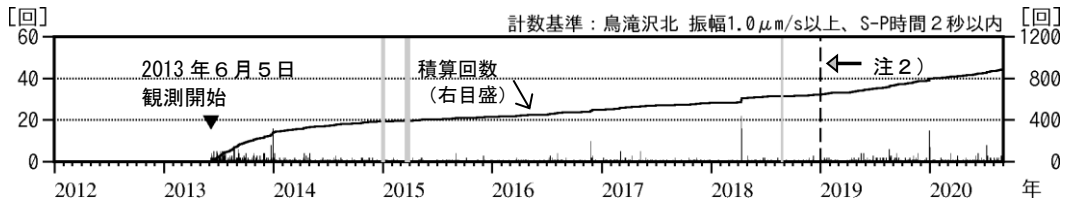


図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2020年8月）

- ・ 計数基準の変遷は次のとおりです。変更に伴い検知力が向上しています。
 観測開始 2013年6月5日～ 青森県沖揚平観測点 振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内
 注2) 2019年1月1日～ 鳥滝沢北観測点 振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内
- ・ 灰色部分は欠測を表しています。

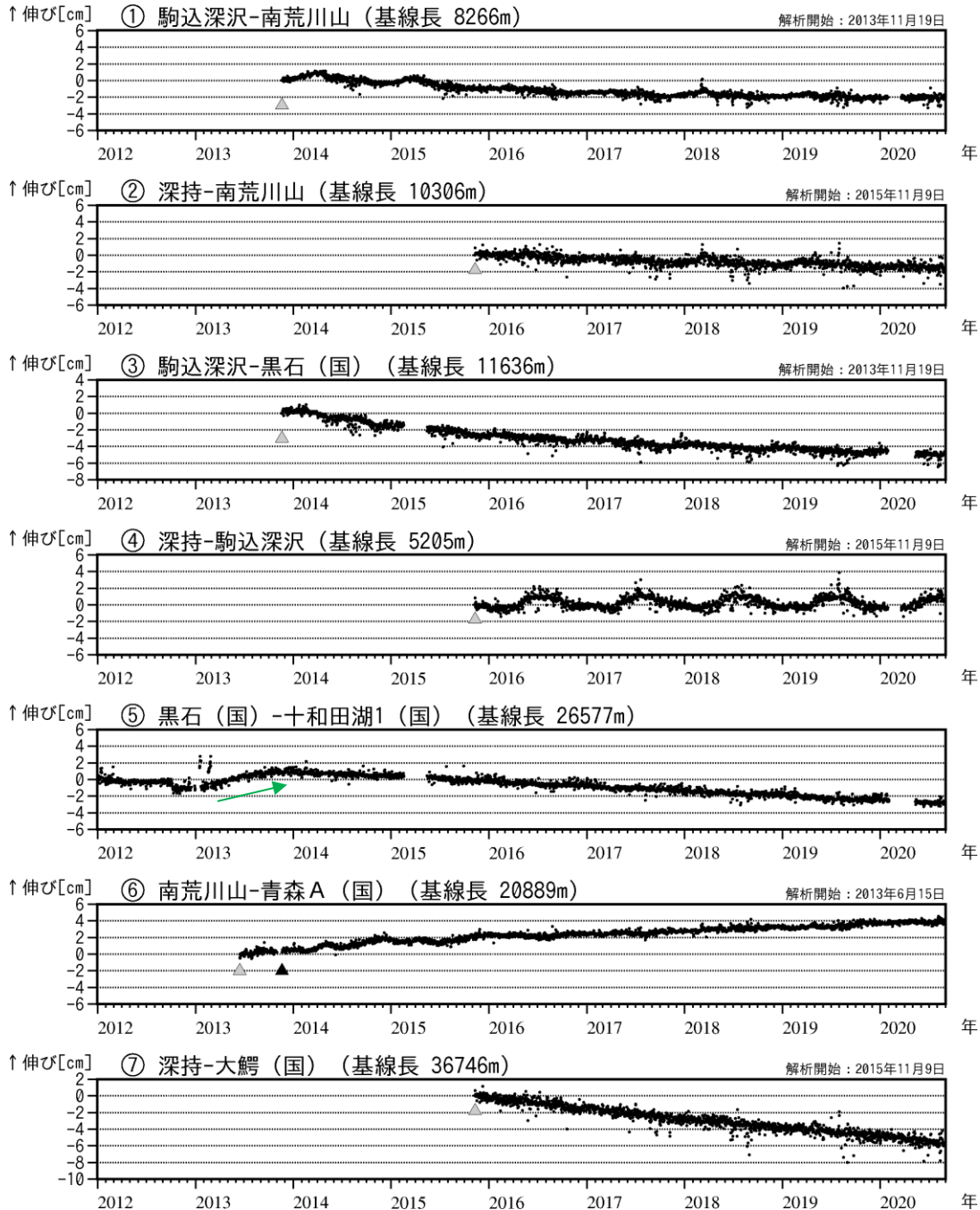


図3 八甲田山 GNSS 基線長変化図（2012年1月～2020年8月）

- ・ 2013年の活動時に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されています。
- ・ ①～⑦は図5のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・ 空白部分は欠測を示します。 ・ (国)は国土地理院の観測点を示します。
 ▲：2013年11月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました。
 ▲：解析開始を示します。

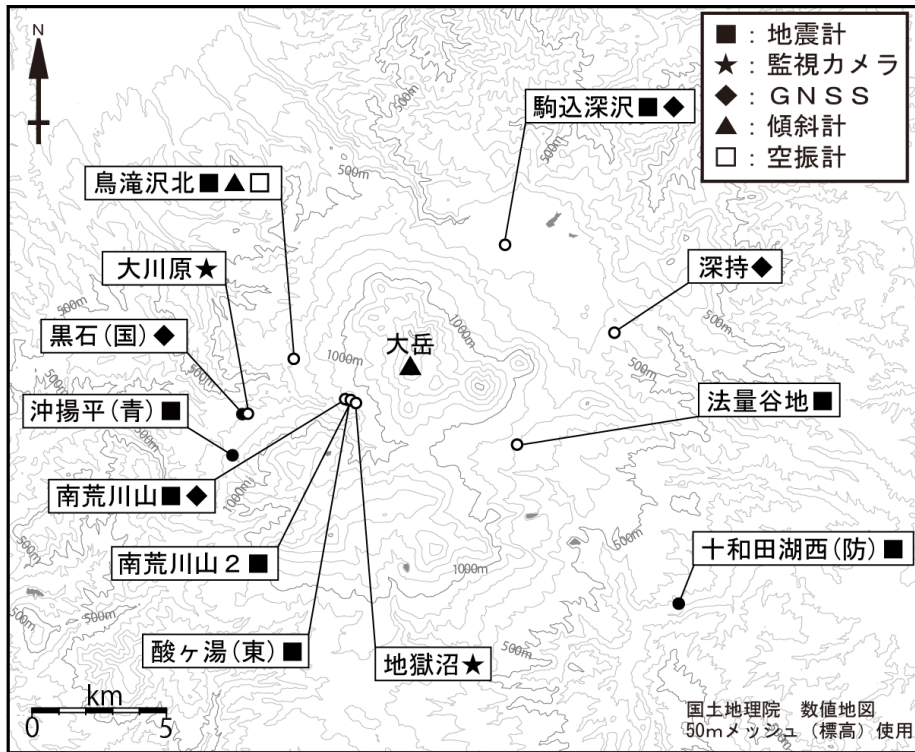


図4 八甲田山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所
（青）：青森県

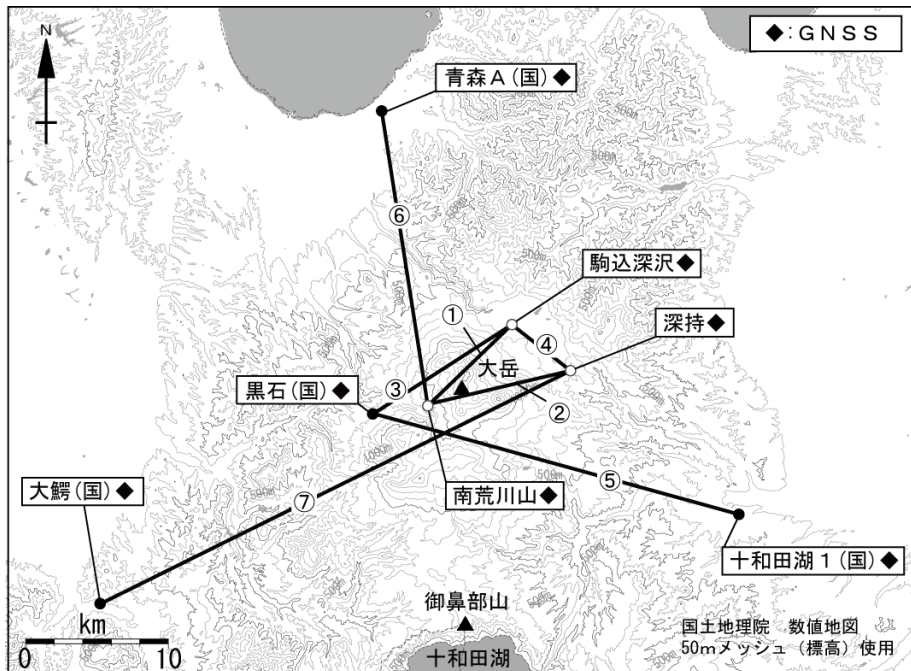


図5 八甲田山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院